浅間山火山防災マップ

御代田町

浅間山は、噴火が起こるのは数分程度であるとされています。一方で過去に噴火が繰り返されてきた歴史があります。

この「浅間山火山防災マップ」では、過去の火山活動を紹介するとともに、噴火に備えて、何をどこに集められ避難をどこへ向かうべきかを示しています。万一の噴火に対する心がまえとして活用するのに、この火山防災マップを役立ててください。

このマップに関するお問い合わせ先

御代田町役場建設課　電話 0267-32-3111

浅間山で予想される噴火のすがた方

浅間山では、様々規模の噴火、小～中規模の噴火、大規模の噴火の発生が想定されています。様々規模や小～中規模の噴火が発生することで、その状況を踏まえ比較的手をつけることがあります。過去によっては火山活動が長期化・発展することもあります。

火山性の異常が発生した場合

火山情報（火口周辺警報や火山予報 など）が発表されます

噴火活動の動向

- 噴火活動の開始（時期は不明）
- 噴火活動の継続（時期は不明）
- 噴火活動の終息（時期は不明）

噴火活動の開始

時期は不明

噴火口周辺に火山灰が降る

噴火規模の噴火

浅間山（火口周辺）

小～中規模の噴火

過去の噴火の中で、比較的頻繁に発生している噴火。

火山灰、火山礫、火山弾、溶岩、噴煙、降雨時の土石流、火砕流・火砕サージ、降雨後火山灰流 など

過去100年間に比較的頻繁に発生している噴火。

噴火口周辺に火山灰が降る

噴火口周辺に火山灰が降る

大規模の噴火

浅間山（火口周辺）

火山灰、火山礫、火山弾、溶岩、噴煙、降雨時の土石流、火砕流・火砕サージ、降雨後火山灰流、洪水、地震 など

噴火口周辺に火山灰が降る

噴火口周辺に火山灰が降る

噴火口周辺に火山灰が降る

過去1000年間に発生した

大規模の噴火

浅間山（火口周辺）

火山灰、火山礫、火山弾、溶岩、噴煙、降雨時の土石流、火砕流・火砕サージ、降雨後火山灰流、洪水、地震 など

噴火口周辺に火山灰が降る

噴火口周辺に火山灰が降る

噴火口周辺に火山灰が降る

過去1000年間に発生した

火山性の異常が発生した場合

火山情報（火口周辺警報や火山予報 など）が発表されます

噴火活動の動向

- 噴火活動の開始（時期は不明）
- 噴火活動の継続（時期は不明）
- 噴火活動の終息（時期は不明）

浅間山の噴火警戒レベルと噴火警報・噴火予報

噴火警戒レベルは、火山活動の状況に応じて「警戒が必要な範囲」と住民などがとるべき防災対策、登山規制に応じて、気象庁が噴火警報・噴火予報の中で発表する指標です。

名称	対象範囲	レベル（キーワード）	火山活動の状況	住民等の行動
噴火警報（居住地域）	居住地域及びそれより山側	5（避難）	居住地域に重大な影響を及ぼす事態が発生、または発生が切迫していると推測される。	居住地域の住民等の避難の準備
噴火警報		4（避難準備）	居住地域に重大な影響を及ぼす噴火が発生すること、または発生することが予想される。	居住地域の住民等は、高齢者等の避難準備
噴火警報（火口周辺）	火口から概ね2キロメートル以内	3（入山規制）	居住地域の近くまで重大な影響を及ぼす（火口周辺）噴火が発生、または発生することが予想される。	通常の火山活動状況になるまで登山禁止または登山の自粛
火山（火口周辺）警報		2（火口周辺規制）	火口周辺に影響を及ぼす（火口の近くに入れない）噴火が発生、または発生することが予想される。	通常の生活
噴火予報		1（活火山であることに留意）	火山の状態は特段の問題なし。火口では噴火が発生することに留意。	通常の生活

- 噴火警戒レベル4～5（噴火警報）
  噴火警戒レベル4～5では、居住地域等で被害が出る恐れがあるため、避難等準備や避難等を求め発表します。レベル4～5の発表時には、防災関係機関・報道・消防団に伝えることになります。
- 噴火警戒レベル2～3（火口周辺警報）
  噴火警戒レベル2～3では登山者の規制が出る可能性があります。特別規定では、噴火に伴い溶岩流が出た場合の防災対策は、噴火の状況に応じて、特別に、必要な情報を提供することがあります。一時的に、必要な情報を提供することがあります。

町が発表する防災情報

下のような防災情報が出たら、町からの情報にしたがって、身の安全に行動してください。

避難等準備・高齢者等避難開始

避難勧告や避難指示（緊急）を発令するまでに、あらかじめ準備をしておくこと。

- いつでも避難ができるように準備をしましょう。身の安全を図ることは、避難を開始しましょう。
- 要配慮者は避難を開始し、安全に避難しましょう。

避難勧告

災害による被害が予想され、人的被害が発生する可能性が高まったと判断

- 避難場所へ避難をしましょう。
- 家に留まっている場合は、直ちに安全な場所へ避難しましょう。

避難指示（緊急）

災害が発生するなど状況がさらに悪化し、人的被害の危険性が非常に高まったと判断

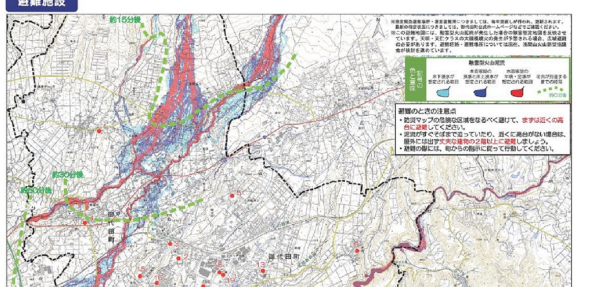
- 直ちに安全な場所へ避難しましょう。

※ 防災情報は、必ずしも段階を踏まえて発令されるとは限らないので、ご注意ください。また、これらの情報が発表されていないとしても、自分の判断で避難されてください。

※ 発表は、テレビ、ラジオ、インターネット、携帯電話、防災無線、消防団、自治会などを通じて伝達します。

※ 発表は、必ずしも、連続して発表されるとは限らないので、ご注意ください。

避難施設



避難施設

	避難施設名
1	御代田中学校
2	御代田小学校
3	馬瀬口小学校
4	塚原小学校
5	小沼小学校
6	御代田町総合体育館
7	御代田町総合体育館（第2体育館）
8	上信越自動車道
9	御代田町役場
10	御代田町保健センター
11	御代田町民会館
12	御代田町中央公民館
13	御代田町中央公民館（別館）
14	御代田町中央公民館（第2別館）
15	御代田町中央公民館（第3別館）
16	御代田町中央公民館（第4別館）
17	御代田町中央公民館（第5別館）
18	御代田町中央公民館（第6別館）
19	御代田町中央公民館（第7別館）
20	御代田町中央公民館（第8別館）
21	御代田町中央公民館（第9別館）

浅間山の過去の火山活動

小～中規模噴火

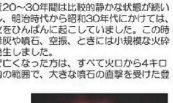
2004年の噴火

浅間山は、最近20～30年間は比較的静かな状態が続いています。しかし、明治時代から昭和30年代にかけては、小～中規模の噴火をひんぱんに起こしていました。この時期の噴火では、降灰や噴石、空振、ときには小規模な火砕流などの現象が発生しました。

これらの噴火でむくなったわけ、すべて火口から4キロメートル程度以内の範囲で、大きな噴石の直撃を受けた登山者でした。

小～中規模噴火時の注意点

小～中規模の噴火は、今後も起こりやすいと予想されます。噴火した場合、火口から4km以内では、大きな噴石が飛んでくる可能性があります。**噴火口は危険ですので火口から4キロメートル以内に近づいてはいけません。**噴火していないときでも、指定された登山道以外は立ち入り禁止です。


2009年の噴火

大規模噴火

大規模な噴火は、過去2000年間に3回起こっています。明治以降、浅間山で大規模噴火の発生はありませんが、将来起こる可能性はあります。

天仁噴火 1108（天仁元）年

天仁噴火は平安時代に発生した大噴火で、天明噴火並の記録は残っていません。追分火砕流、上野吾妻降灰が西下し、火山噴出物の量は天明噴火の2倍以上であったと考えられています。

1783（天明3）年の噴火絵図（浅間山度分大噴之図）

天明噴火 1783（天明3）年

天明噴火は、噴火しより収まったりを繰り返しながら、次第に活動が大きくなっていきました。7月27日頃から噴火が連続するようになり、8月4日からは夜に加えて昼も激しい噴火で、大量の軽石や火山灰の降下、吾妻川砂防、発掘出し遺跡の鉄下が短期間に発生しました。その後の降灰砂防・台風などにより、鬼怒川の氾濫が大きな被害を受け、下流では武蔵国にまで多くの村が流されました。

天明噴火時に高崎の軽石や火山灰から逃げまどう人々（浅間山噴火之記）

○天明・天仁噴火で発生した現象と主な被害

	天明噴火（1783年）	天仁噴火（1108年）
発生した現象	・降灰 ・大森流堆石 ・火砕流（北麓に到達） ・降灰流（北麓に到達） ・土石なだれ ・鉄流（長野盆地北に流下）	・降灰 ・大森流堆石 ・火砕流（現在に流れる） ・降灰流（北麓に流れる）
被害	・死者：1500名以上 ・倒壊家屋：2000棟以上	詳細不明

○天明噴火（1783年）の推移

天明噴火では、複数の小～中規模噴火が数日間隔で発生しました。ただし、次の大規模噴火までの間の間隔は長くなるとは限りません。

降下火砕物（降灰）は、一度の噴火の間でも風向きによってさまざまな方向に降ります。大規模噴火では、軽石も遠くまで降ります。

天明噴火で降ちった軽石

古文書の記録をもとに、天明噴火の火山灰が降ちった範囲を時間ごとに示した図。図例・浅間火山提出

もしも大規模噴火が起こったら…

●降灰についての注意点

- 上空の風に乗って運ばれた火山灰や軽石が、風下側の地上に積もります。
- 火山灰を吸い込んだコンピューターや精密機器が故障する可能性があります。
- 木造家屋は屋根に積もった火山灰・軽石の重さで倒壊したり、雨漏によって火事になるおそれがあります。
- 火山灰によって呼吸器障害や目の炎症が起こります。ぜんそくや気管支炎などの症状を訴える方は、注意が必要です。
- 道路が滑りやすくなり、車やバイク、自転車のブレーキが利きにくくなります。また、タイヤで巻き上げられた火山灰などで視界が悪くなります。軽石が厚く積もると自動車の走行は困難です。

○有珠山1977年噴火の降灰被害の例

大規模噴火時の注意点

天明・天仁クラスの大規模噴火が発生した場合、**広域避難の必要があります。**避難経路・避難場所については**国住民間山火山防災協議会**で検討を進めています。火砕流や火砕サージの影響を受ける可能性がある範囲では、**事前に安全な場所へ避難する**必要があります。

住民等への火山防災情報や避難情報の伝達

火山活動が活発化したり噴火したときなどは、各市町村からは、地域防災計画に基づき、噴火警戒レベルに応じた避難情報の伝達、必要な防災情報を、防災行政無線や広報車等を使用し、住民や登山者、観光客等に お知らせします。

浅間山の監視体制

浅間山周辺には地震計、傾斜計、空振計、GNSS観測装置、監視カメラ等、多数の観測機器が設置されています。気象庁はこれらのデータを用いて24時間体制で常時観測・監視を行っており、火山活動に応じて必要な火山防災情報を発表します。

噴火発生とその規模を用いち早く検知するための装置

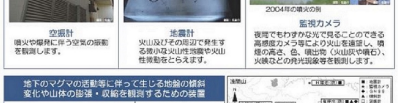
2004年の噴火の例

空振計
噴火や爆発に伴う空気の振動を観測します。

地震計
火山ほぼその地図で発生する地震の発生、地震の発生、低周波（火山灰の噴石）、火映活動の発光現象等を観測します。

監視カメラ
夜間でもわずかな火で見ることができる高感度カメラにより火山を遠望し、噴煙の高さ、色、噴出物（火山灰や噴石）、火映活動の発光現象等を観測します。

地下のマグマの活動等に伴って生じる地盤の傾斜変化や地殻の変形・変動を観測するための装置



GNSS観測装置
複数のGNSS観測装置を組み合わせることで、火山周辺の表面の変形を検出することができます。

傾斜計
火山周辺のごく狭い小地域の傾斜変化をとらえることができます。

浅間山
東京
横浜
千葉
宇都宮
前橋
水戸
長野
新潟
甲府
静岡
富士山
伊豆半島
伊豆大島
三宅島
八丈島
小笠原諸島
硫黄島
南鳥島
沖ノ鳥島
南大東島
北大東島
与那国島
石垣島
宮古島
沖縄本島
大東諸島
小笠原諸島
地震計
傾斜計
空振計
GNSS
監視カメラ
火山ガスの観測
地殻変動観測
地震観測
火山ガスの観測
地殻変動観測
地震観測
地震観測
地震